

國學院大學學術情報リポジトリ

令和2年度大学院特定課題研究の研究課題研究成果報告書：江戸期『論語』訓蒙書の研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西岡, 和彦, 石本, 道明, 青木, 洋司 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001538

令和2年度 大学院特定課題研究の研究課題研究成果報告書

研究課題：江戸期『論語』訓蒙書の研究

研究代表者：西岡 和彦

共同研究者：石本 道明、青木 洋司

研究成果

令和2年度は、特定課題研究「江戸期『論語』訓蒙書の研究」の3年目で最終年度にあたる。ところが、年度初めから新型コロナウイルス感染症拡大にともない大学での研究会を開くことができず、また研究機関での資料調査（小浜市立図書館酒井家文庫・大阪大学附属図書館懐徳堂文庫・慶應義塾大学附属研究所斯道文庫等を計画）も実施することができなくなった。そのため、今年度は過去2年の研究・調査の整理ならびに加筆訂正と、調査済みの資料解題、および継続中の資料蒐集に専念した。また、『報告書（第3集）』の作成に代えて、國學院大學大学院「出版助成（乙）令和3年度」による『江戸期『論語』訓蒙書の基礎的研究（案）』刊行に計画を変更した。

なお、以上3年間の研究成果として、学際的な環境下で『報告書』（第1集）（第2集）を纏めることができたことのほかに、大学院RAやPDをはじめとする若手研究者を複数名育成できたことを特筆したい。

○今年度研究会は、計10回（時間帯19：30～22：00）すべてZoomで実施した。日程と内容は、下記の通りである。

- 第1回（令和2年7月3日）これまでの活動報告と今年度の計画
- 第2回（令和2年7月31日）解題（『論語序説假名鈔』・青木）の検討と活動報告
- 第3回（令和2年8月28日）解題（『正文大綱四書俚諺鈔』・青木）の検討、研究報告（大貫・木村）
- 第4回（令和2年9月25日）『報告書（第3集）』の計画と解題（『論語余師』・青木、『論語集解國字辯』・今瀬）の検討
- 第5回（令和2年11月2日）『江戸期『論語』訓蒙書の基礎的研究（案）』出版への変更検討
- 第6回（令和2年11月26日）『江戸期『論語』訓蒙書の基礎的研究（案）』出版計画の検討
- 第7回（令和2年12月17日）『江戸期『論語』訓蒙書の基礎的研究（案）』出版計画と解題（『經典余師』・青木、『論語古訓正文片假名附』・木村）の検討

(148)

第8回（令和3年1月28日）『江戸期『論語』訓蒙書の基礎的研究（案）』出版計画と解題（『論語集解國字辯』・今瀬）の検討

第9回（令和3年2月25日）『江戸期『論語』訓蒙書の基礎的研究（案）』出版計画と解題（『論語集解國字辯』・今瀬）の検討

第10回（令和3年3月25日）『江戸期『論語』訓蒙書の基礎的研究（案）』出版計画と関連論考（「毛利貞齋『重改論語集註俚諺鈔』について—引用諸註を中心として—」・青木）、ならびに解題（『論語古訓』『論語古訓外傳』『論語古訓正文』『論語古訓正文片假名附』の序文等・木村）の検討

○今年度個人の成果業績

学会での口頭発表は、下記の1点である。

(1) 大貫大樹「浅見綱斎『論語師説』について—日本に於ける『論語』実践—」（國學院大學中國學會第219回例会、令和2年10月24日）

学会誌への掲載は、下記の3点である。

(1) 青木洋司「溪百年『論語余師』再考 —『論語集注』との関係を中心として—」（『國學院中國學會報』第66輯、令和2年12月）

(2) 大貫大樹「浅見綱斎『論語師説』と縫綫惻怛 —我が国に於ける『論語』実践—」（『國學院中國學會報』第66輯、令和2年12月）

(3) 柴崎一孝「中根鳳河『論語微渙』小考 —江戸期『論語』訓蒙書の研究—」（『東アジア文化研究』第6号、令和3年2月）

○研究代表者と共同研究者以外の今年度の参加者

國學院大學大学院 RA 大貫大樹（國學院大學大学院博士課程後期在学中） * 在宅勤務（報告書は毎月提出）

ほかに篠原泰彦（朔工房代表・國學院大學文学部兼任講師、資料公開・編集等担当）、木村剛大（國學院大學大学院博士課程後期在学中、解題担当）、今瀬英一郎（國學院大學大学院博士課程後期在学中、解題担当）、柴崎一孝（國學院大學大学院修了生、高等学校教員、解題担当）が参加し、『報告書（第3集）』（のち刊行書『江戸期『論語』訓蒙書の基礎的研究（案）』に変更）の編集や解題の検討等、研究補助につとめた。

以上